

大学生アスリートにおけるソーシャル・サポートとスティグマの  
心理の専門職に対する援助要請態度への関連

順天堂大学大学院  
スポーツ健康科学研究科  
学籍番号：4119039  
氏名：細川 峻

### 【背景と目的】

大学生アスリートはメンタルヘルスの問題を抱える可能性があり、そのメンタルヘルスの悪化を防ぐためには、必要に応じて他者に援助を求める援助要請を適切に行うことが重要となる。援助要請とは、個人が問題の解決の必要性のために他者に対して直接的に援助を求めることである。しかし、国外の研究では、大学生アスリートは一般大学生よりも心理の専門職に援助要請を行うことが少ない。

このような背景から、心理の専門職への援助要請に影響を与える抑制要因と促進要因が検討されてきた。主要な抑制要因のひとつはスティグマ（社会的スティグマと自己スティグマ）と考えられている。社会的スティグマは、心理の専門職による心理的援助を求める人は社会的に受け入れられないという認識である。また、自己スティグマは、自分が社会的に受け入れられないと自覚することで引き起こされる、自尊心や自己価値の低下とされている。一方で、主要な促進要因のひとつはソーシャル・サポートとされている。ソーシャル・サポートは家族や友人、隣人など、ある個人を取り巻く様々な人々からの有形・無形の援助のことである。このように、先行研究では促進・抑制要因が検討されてきている。しかしながら、これまでの日本人を対象とした研究では、大学生アスリートと一般大学生との比較をしておらず大学生アスリートの特徴が明らかになっていない。

そこで本研究は、大学生アスリートと一般大学生との比較を行い大学生アスリートのスティグマと援助要請態度の特徴を明らかにすること、大学生アスリートを対象にソーシャル・サポートとスティグマの援助要請態度への関連を明らかにすることを目的とした。

### 【方法】

大学生アスリート 207 名（ $19.7 \pm 0.7$  歳）と一般大学生 508 名（ $19.3 \pm 1.2$  歳）を対象に 2020 年 9 月～11 月に Web 調査を行った。調査内容は、ソーシャル・サポートスティグマ、援助要請態度であった。分析方法は、大学生アスリートと一般大学生別にスティグマと援助要請態度を比較した。次に、大学生アスリートのみを対象にソーシャル・サポートとスティグマの援助要請態度への関連を検討した。

### 【結果および考察】

大学生アスリートは一般大学生と比較して、スティグマと援助要請態度の得点に差はなかった。しかし、先行研究で示された米国の大学生と比較したところ、日本の大学生の援助要請態度の得点は 10 点以上低かった。このことから、日本人大学生は米国の大学生よりも心理の専門職に対して援助を求めない可能性が示された。大学生アスリートにおいて自己スティグマと社会的スティグマは援助要請態度に対して負の関連を示し、ソーシャル・サポートに対し正の関連をした。また、ソーシャル・サポートは、社会的スティグマが低いアスリートでは、援助要請態度を促進する可能性があるが、社会的スティグマが高いアスリートでは援助要請を促進する可能性は低いことが明らかとなった。このことから、スティグマによる援助要請への消極的な態度は、人間関係を変化させても改善することが難しいと考えられる。

### 【結論】

大学生アスリートは一般大学生と比較して、自己スティグマと社会的スティグマ、援助要請態度に差はなかった。大学生アスリートにおいて、自己スティグマと社会的スティグマは援助要請態度に抑制的に関連し、ソーシャル・サポートは援助要請態度に促進的に関連した。ソーシャル・サポートは社会的スティグマが低いアスリートにおいて、援助要請態度を引き出す可能性があるが、社会的スティグマが高いアスリートにおいては援助要請態度を引き出す可能性は低いことが明らかとなった。